

## 2020年6月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa 高度をみると、グリーンランドの南海上、ヨーロッパ北東部、東シベリア北部で正偏差、ヨーロッパ南部、西シベリア、東シベリア南西部、アラスカ南部で負偏差となった。200hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は北アフリカ、中央アジアで平年より強く、東アジアでは平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧をみると、グリーンランドの南海上、ヨーロッパ北東部～ロシア西部、カムチャツカ半島付近で正偏差、ヨーロッパ南部、カラ海～中央シベリア、中国中部～日本付近、北米北西部・中部で負偏差となった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ東部、東シベリア北部、東アジア、北米中部で高温偏差、ロシア西部、東シベリア南西部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、南インド洋熱帯域の西部、南アジアで活発、南シナ海北部～フィリピンの北東海上、太平洋赤道域の西・中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にアフリカ～インド洋に位置し、その後は東進が不明瞭となった。対流圏上層では、太平洋熱帯域の西部を除いて南北半球の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋熱帯域の西部で南北半球対の低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域の西部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤

道域では太平洋で正偏差、南米～大西洋、インド洋で負偏差となった。南方振動指数は $-0.6$ だった。

### 世界の天候

世界の月平均気温偏差は $+0.41^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以降、6月として2番目に高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.73^{\circ}\text{C}/100$ 年（速報値）である。

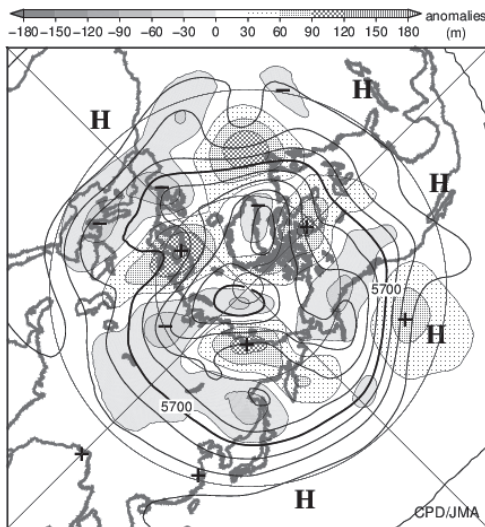
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア北部～西シベリア北東部、東アジア東部～東南アジア北西部、ロシア南西部及びその周辺、ヨーロッパ北部～東部、西アフリカ西部～中部アフリカの西部、米国北東部～中部、南米北部、オーストラリア北部～東部、オーストラリア西部～南西部で異常高温となった。
- 東南アジア北西部～中部、ヨーロッパ西部～北アフリカ北部、メキシコ中部～南東部で異常多雨となった。

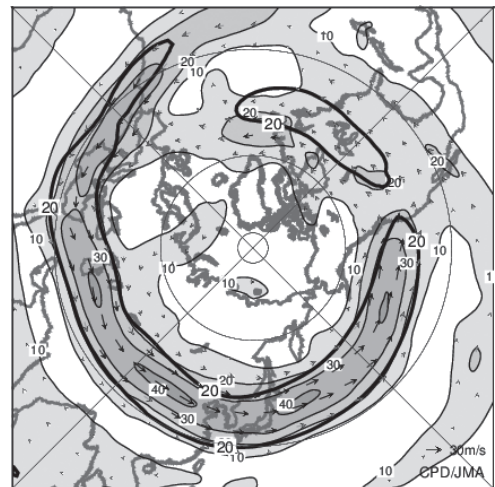
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

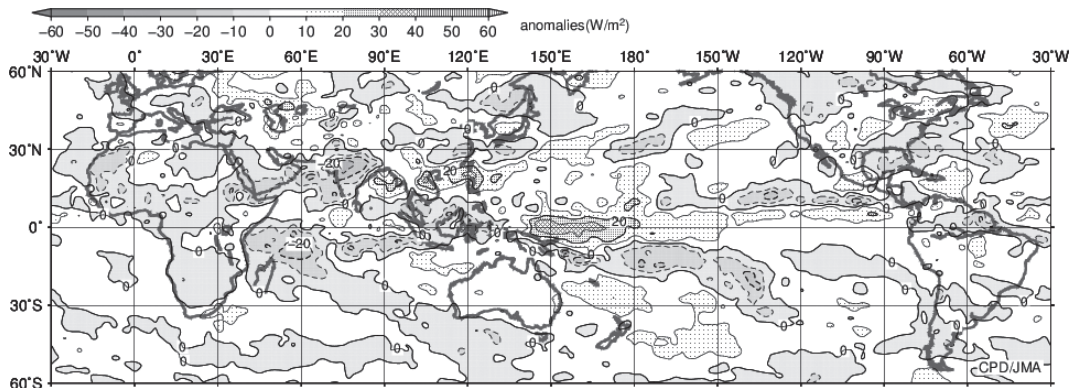
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2020年6月の北半球月平均500hPa 高度及び  
 年偏差  
 等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は  
 1981～2010年の平均値。

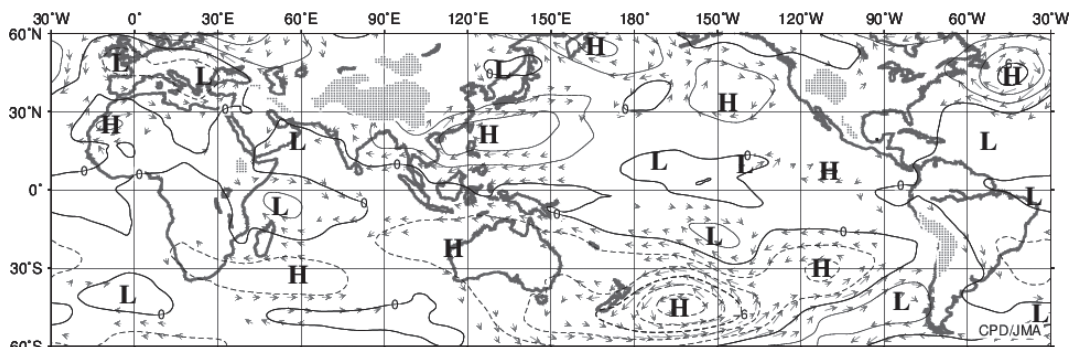


2020年6月の北半球月平均200hPa 風速及び  
 風ベクトル  
 等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値  
 線間隔は20m/s。年偏差は1981～2010年の平均値。

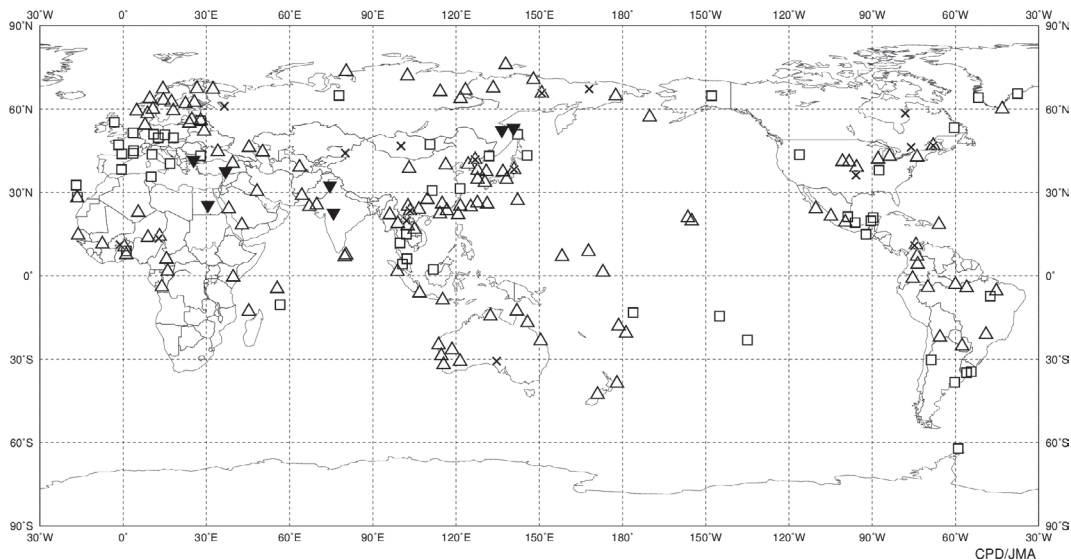


2020年6月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は $10\text{W/m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年6月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。